

## 議題2. 「医療・介護連携ルール」等活用状況の調査結果について

---

### 北九州医療・介護連携プロジェクト

1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（結果）
2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（結果）

# 1. 「医療・介護連携ルール」活用状況調査（対象：ケアマネ事業所）

## 1. 調査目的

- 北九州医療・介護連携プロジェクトの中心的な取組みである「とびうめ@きたきゅう」や「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査を、前年度に引き続き実施。

## 2. 調査概要

- 病院からケアマネ事業所へ、利用者が入院された際に連絡が来ているか（「医療・介護連携ルール」が運用されているか）について、調査票を市内の全ケアマネ事業所に送付し、回答状況を集計。

## 3. 調査期間

- 令和5年11月27日（月）から同年12月22日（金） ※約1か月間

## 4. 回答率

- 43.1%（160/371事業所）※小規模多機能型居宅介護を含む  
《昨年度 41.9%（158/377事業所）》

## 5. 調査期間中の入院件数

- 536件（救急入院・当日入院・その他入院）  
《昨年度 500件》

## ○結果要点

### 【病院→ケアマネ事業所への入院連絡】

- ① 入院3日以内に連絡があった **274/536件 (51.1%)** 《昨年度 51.2%》
- ② 入院4日以降に連絡があった 23/536件 (4.3%) 《昨年度 4.4%》
- ③ 連絡がなかった (家族等から連絡あり) 239/536件 (44.6%) 《昨年度 44.4%》

### 【ケアマネ事業所→病院への情報提供】 <病院からの入院連絡あり（上記①+②）を集計>

- ① 3日以内に情報提供をした **217/297件 (73.1%)** 《昨年度 78.8%》
- ② 4日以降に情報提供をした 11/297件 (3.7%) 《昨年度 2.2%》
- ③ 情報提供していない 69/297件 (23.2%) 《昨年度 19.1%》

\*参考：全ての入院（536件）における「ケアマネ事業所→病院への情報提供」の割合

		全体 (N=536件)	左のうち、「病院からの連絡」が	
			ありの場合 (N=297件)	なしの場合 (N=239件)
全入院種別		情報提供をした	70.7%(379件)	<b>76.8%</b> (228件) <span style="color: red; font-weight: bold;">←13.6pt差→</span> <b>63.2%</b> (151件)
	上記内訳	入院を知って3日以内	63.4%(340件)	73.1%(217件)
		入院を知って4日以降	7.3%(39件)	3.7%(11件)
		情報提供なし	29.3%(157件)	23.2%(69件)

➔ 病院からケアマネ事業所への「入院連絡あり」のほうが  
ケアマネ事業所から病院に「情報提供をした」割合が高くなっている

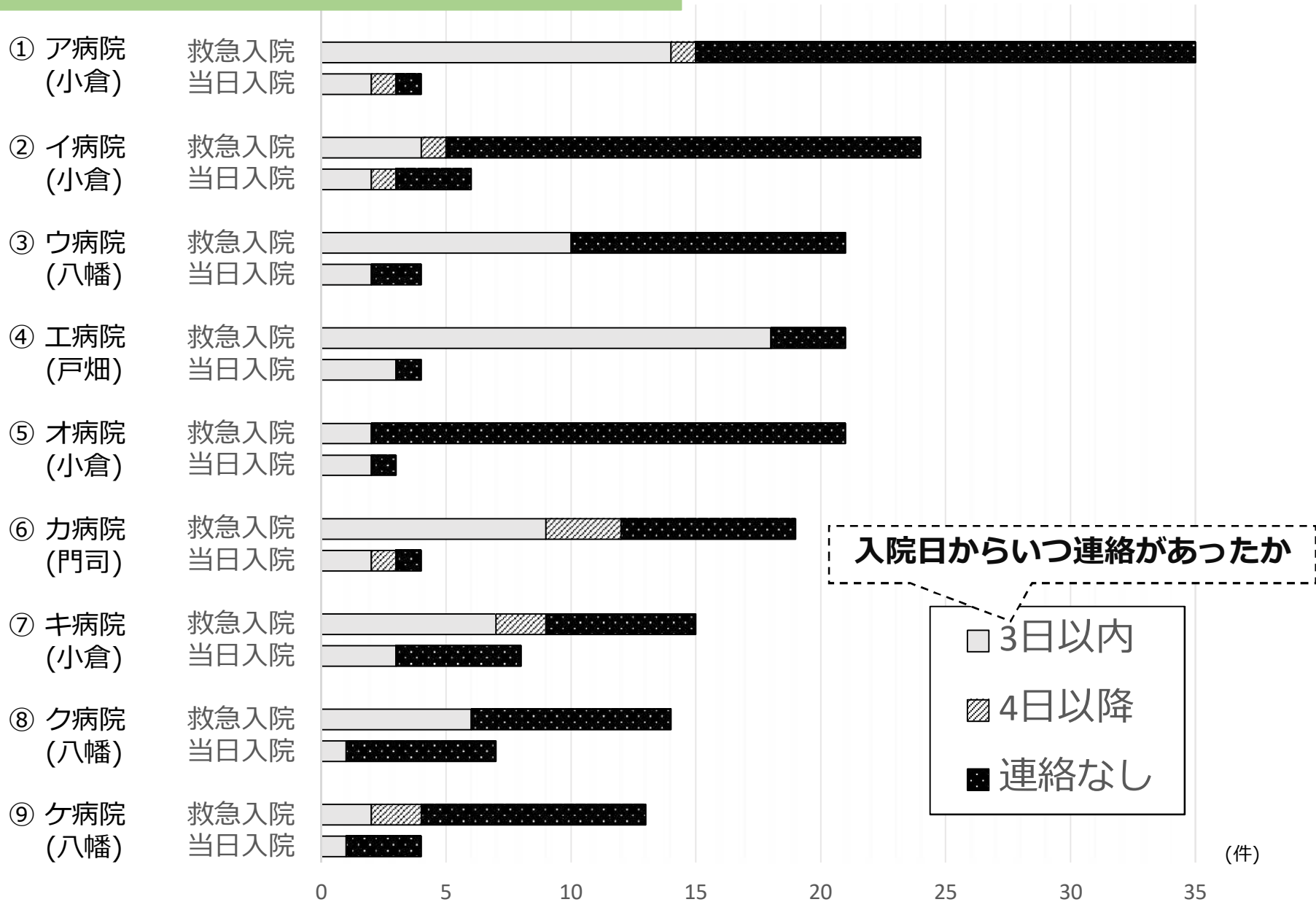
## ケアマネ事業所から見て「誰から利用者入院の連絡があったか」

連絡をくれた相手方			連絡があった割合（件数）	
病院	家族	その他		
医療・介護連携ルール上のルート	○	○	○	3.7%(20/536件)
	○	○		27.2%(146/536件)
	○		○	8.8%(47/536件)
	○			15.7%(84/536件)
		○	○	3.5%(19/536件)
		○		26.7%(143/536件)
			○	14.4%(77/536件)
<b>55.4%(297/536件)</b>	<b>61.2%(328/536件)</b>	<b>30.4%(163/536件)</b>		
{ 55.6%(278/500件)	61.4%(307/500件)	26.8%(134/500件)	←昨年度（参考）	

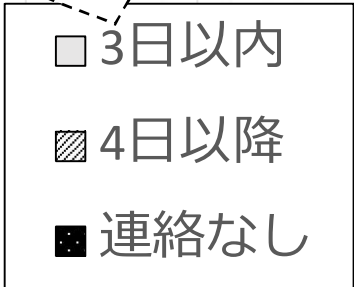
- **病院⇒家族⇒ケアマネ事業所** の入院連絡ルートは、昨年度に続き**最も多い**
- しかし、医療・介護連携ルール上の入院連絡ルート **病院⇒ケアマネ事業所** はケアマネ事業所からの情報提供率の向上にもつながっており、**重要なルート**と言える
- ➔ プロジェクトで策定した『医療・介護連携ルール』のさらなる徹底が必要

# 病院からケアマネ事業所への 「利用者が入院しました」の連絡

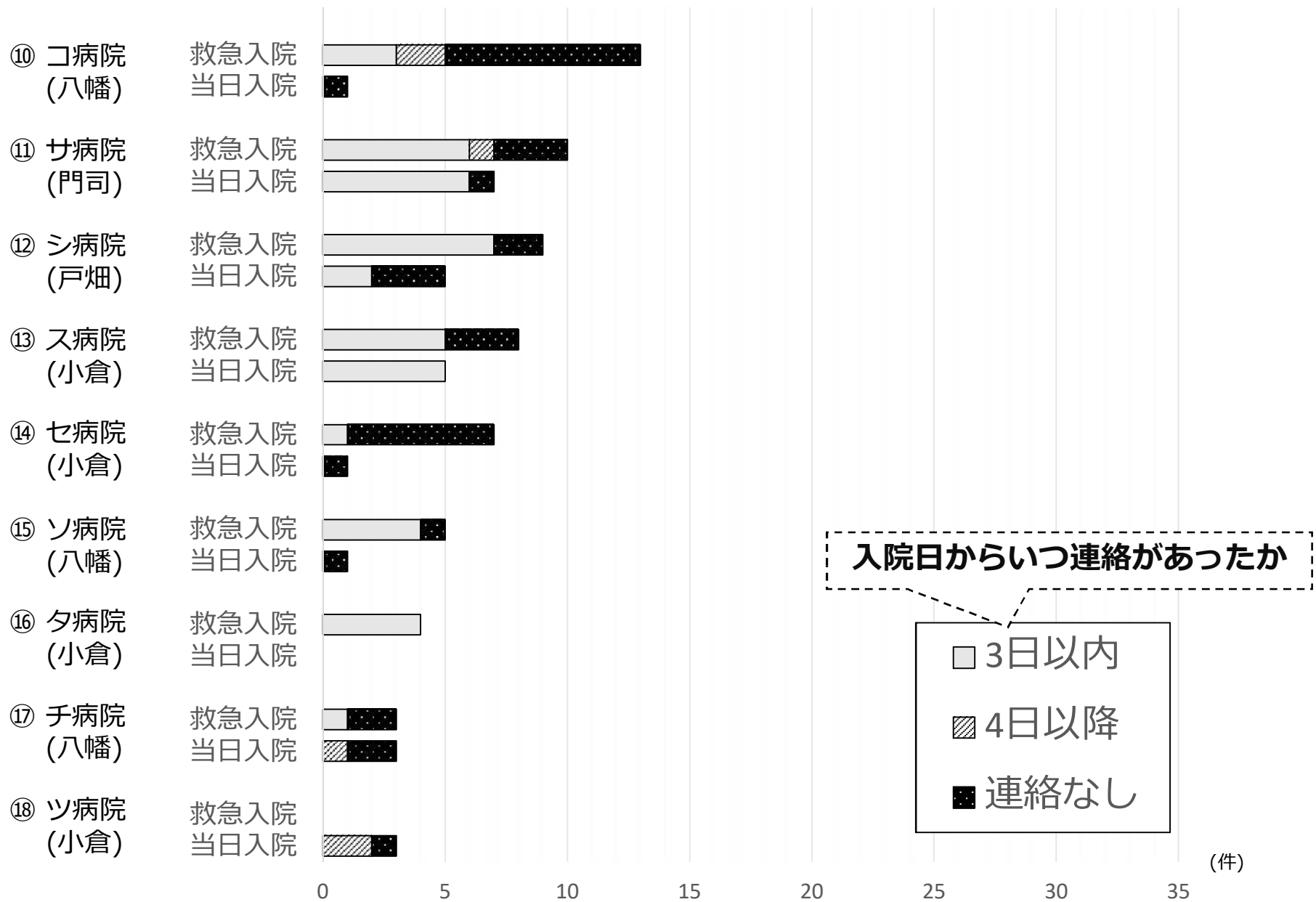
※R5.11.27~R5.12.22の入院者（救急入院、当日入院）  
について、市内のケアマネ事業所に調査したもの



入院日からいつ連絡があったか



(件)



それぞれの病院内でも  
ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差

## ○まとめ（ケアマネ事業所調査）

- 『医療・介護連携ルール』の運用状況については、概ね**前回と同様**の結果。
  - ・ 病院からケアマネ事業所への入院3日以内の連絡  
⇒ルールどおり連絡があったのは**5割**
  - ・ ケアマネ事業所から病院への連絡後3日以内の情報提供  
⇒ルールどおり情報提供をしたのは**7割**
- ケアマネ事業所に利用者の**入院の連絡をくれた相手方で、最も多かったのは、**前回に続き**「家族」の61.2%**で、**「病院」は55.4%**であった。
- それぞれの病院内でも、ケアマネ事業所への入院連絡の対応に差。
- 病院からケアマネ事業所に入院連絡をしない場合に比べ、**病院からケアマネ事業所に直接連絡した場合の方が、****ケアマネ事業所からの情報提供率の向上（+13.6pt）**につながっている。
- さらなる医療と介護の連携を進めるためにも、**プロジェクトで策定した『医療・介護連携ルール』を改めて周知・徹底**する必要がある。

## <参考>

### ○病院 → ケアマネ事業所への利用者入院の連絡の有無と日数 (病院からの連絡日 - 入院日)

病院からの連絡の有無	病院からの連絡の有無と日数	全入院種別 (N=536件)	内 訳		
			救急入院 (N=275件)	外来受診後の 当日入院 (N=121件)	その他の入院 (N=140件)
あり	病院から連絡があった	55.4%(297件)	50.9%(140件)	60.3%( 73件)	60.0%( 84件)
	上記内訳				
	入院3日以内	51.1%(274件)	46.2%(127件)	54.5%( 66件)	57.9%( 81件)
	入院4日以降	4.3%( 23件)	4.7%( 13件)	5.8%( 7件)	2.1%( 3件)
なし	病院から連絡がなかった (病院以外から連絡があった)	44.6%(239件)	49.1%(135件)	39.7%( 48件)	40.0%( 56件)

### ○上記「あり」のうち、

### ケアマネ事業所 → 病院への情報提供の有無と日数 (情報提供日 - 病院からの連絡日)

病院からの連絡後の 病院への情報提供の有無と日数	全入院種別 (N=297件)	内 訳		
		救急入院 (N=140件)	外来受診後の 当日入院 (N=73件)	その他の入院 (N=84件)
情報提供をおこなった	76.8%(228件)	76.4%(107件)	79.5%( 58件)	75.0%( 63件)
上記内訳				
連絡後3日以内	73.1%(217件)	73.6%(103件)	78.1%( 57件)	67.9%( 57件)
連絡後4日以降	3.7%( 11件)	2.9%( 4件)	1.4%( 1件)	7.1%( 6件)
情報提供なし	23.2%( 69件)	23.6%( 33件)	20.5%( 15件)	25.0%( 21件)



## ○参考：北九州医療・介護連携プロジェクトについての意見①

### <「とびうめ@きたきゅう」について>

- 当利用者全員登録しています。
- 基本的に全員に登録をすすめている。介護者も登録ができることを喜ばれた。
- とびうめ@きたきゅうの説明を行う際に、以前、登録をしてスムーズに連携が取れた例をお伝えすることができている。
- 介護認定の際にとびうめ@きたきゅう申し込みができるのはとても画期的です。欲を言えばもう一枚説明用紙を4枚目に入れてくれるとケアマネから説明しやすいです。
- 本人へとびうめのカードが届いているか分かりにくい。送付書類の中に担当ケアマネがいる場合はご連絡ください等の文面があると本人・家族からの連絡で把握しやすいと思う。緊急時に持参していただきとしておけば、ケアマネも次のステップの話をしやすいと思う。
- ケアマネ、介護事業者側のメリットがもう少し感じられればと思います。病院からの情報が得られる、見ることができるなど。
- とびうめの登録は医療の方ですすめてほしい。今のところケアマネにメリットがない。病院はとびうめ@きたきゅうでケアマネを把握してるの？
- 救急搬送時にとびうめ@きたきゅうを活用されていないことが多いと感じている。
- 某病院から利用者様が入院した、と連絡がありました。普段やりとりをしているSWとかではなく、病院の受付？のような方のTELでした。とても不愛想で上から目線で一方的に話をされ、この制度のこともあまりわかっていませんでした。できればよくわかっている方との連携がいいと思います。

## ○参考：北九州医療・介護連携プロジェクトについての意見②

### <医療・介護連携ルールについて>

- どの事例も入院されて間もなく病院から本人の状態の連絡があり、良かった。
- 皆様のおかげで、普段の連携は以前に比べ大変円滑になった印象です。ありがとうございます。
- 病院から入院時の連絡はほとんどありません。ご家族からの入院連絡を受けています。  
入院情報提供書・サービス計画書①～③票を送付しています。その後、ソーシャルの方と連携を図り、退院時には看護要約・リハビリテーション要約・薬情報をいただいています。退院前カンファレンスに参加の場合もあります。
- 最近のご家族により入院の連絡があっていますが、北九州市が発行している入院時の窓口ガイドを利用し電話を入れています。感謝を言うくださる病院もあれば、明らかに面倒くさそうに対応する病院もある。情報提供しているにもかかわらず内容を確認されていないのか、問い合わせをしてこられるケースもあります。
- 医療関係に周知されていない。個人病院や北九州市以外の病院などからの連絡は少ないように思います。
- とびうめを扱っている病院からの連絡はほぼ全くないことが多い。
- CMから病院へ情報提供はするのに、病院にTELしても、CMには内容を教えてくれない。CMも守秘義務等、厳しい研修を受けているのに、平等、対等な立場でないのが現状である。

## ○参考：北九州医療・介護連携プロジェクトについての意見③

### <病院窓口ガイドについて>

- ・ 病院窓口ガイドで連携先がすぐに分かり便利です。
- ・ 病院窓口ガイドは活用させていただいております。
- ・ 病院窓口ガイドは入院時の情報提供の際、確認を行い対応するようにしている。対応窓口等について戸惑わずに済むので良い。すみやかに情報提供できるようになったと思う。
- ・ 病院窓口ガイドはとても助かり活用しております。ただ、病院内で共有できていないのか、窓口で情報提供を持っていっても、理解していない職員がおり、回されることもあります。病院内部でも共有してもらえると助かります（病院内部のことで、すみません）。市の管轄ではないのですが、北九州市近郊（直方・中間）辺りぐらいまでの情報があると、大変うれしいです。

検討

■市外近隣の病院も「病院窓口ガイド」に掲載できないか

### <その他>

- ・ 透析情報、HOTの人の情報、人工呼吸器の人の情報など全住民の情報を事前に登録していれば、災害時どこの人をどの病院に誰が連れていくかまで迅速に対応できるかなと思いました。
- ・ 情報のやりとりが目的ではなく在宅の高齢者と施設等介護者へのメリット・良い効果を目標にさせていただくと良い。情報共有した、連携したで終わらないように。施設生活の高齢者も同様にこの取り組みで退院後もよい状況で施設で暮らせるようになると良い。

## ○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど①

### <良くなった点>

- ・ **連絡することが当たり前になってきて**入院していることを知らなかったということが減った（なくなってきた）と感じています。助かっています。
- ・ 連携が図りやすくなりました。**情報をどこに送ったらいいか、どこに持参すればいいか等聞きやすくなりました。**
- ・ ほとんどの病院が、連携シートをFAX後の連絡に速やかに対応して下さり退院時にサマリー等受け取ることができ、在宅生活支援に活かすことが出来ている。
- ・ 入院すれば病院側からの連絡はよく来るようになっている。
- ・ **急性期病院とのやりとりが随分（以前と比べて）やりやすくなった。**在宅で暮らしている要介護高齢者に対する理解が少しずつではあるが深まってきている感じがある。病院の体質(?)によりまだまだ温度差はある。
- ・ **どの病院も連携室の動きがシステムとして稼働してきた印象**でありがたい。助かっている。**開業医の先生も、話を聞いたり助言を受けやすくなった。**
- ・ 医療連携室を通じて、入院の状況や退院日を事前に連絡してもらえるようになった。
- ・ ソーシャルより医者との連携が図りやすくなった。
- ・ ケアマネから病院への連絡を入れやすくなった。
- ・ 以前に比べて病院から入院の連絡が多くなったと思います。**病院側も介護との連携を積極的にとってくれるようになった**と思います。

## ○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど②

### <お困りごと>

- **病院によって入院連絡をくださる所とそうでない所と別れる。**
- CMに連絡が入らない病院がある（情報を求めている）。どこの誰に連絡すれば良いかわからないという病院も過去にありました。
- 急性期の病院からの報告が少ないと感じている。
- 利用者が入院しても退院しても、病院から一切連絡がないとき（本人から後日あり）。
- 独居の場合、救急車での搬送時に入院となれば必ず連絡をすることを周知して欲しい。
- 退院や転院の際はケアマネ事業所に連絡をくださいと再三伝えても、電話がない病院がある。ケアマネジャーへの情報提供を「**個人情報保護**」ということで**電話で連携できない場面がある**。病名などは教えられないことは認識していますが、退院時期や状態の情報が得られない。**電話で済む内容も、看護師が病院に何度も来てくださと言われる病院**があった。一方でこまめに連絡くれる病院は増えた。連携を意識してくれているのは助かる。
- 救急を扱う病院とは連絡してもなかなか連携がとりづらい。
- 利用者様が入院しても病院から連絡を受けることは少ないです。CMから連絡を取っても担当が決まっておらず情報の共有がうまくいかない時もありました。
- 入院した時の連絡や入院中の情報などとりにくい病院がある。
- 居宅介護支援事業所が情報等一式送りますが、必ずサマリーをいただきたいことを伝えても全くいただけません。また、入院連絡もなく、病棟変更についても連絡なく、ケアマネ側から連絡しても家族にしか伝えませんとの返答。退院の時にしか連絡いただけない状況です。以前より連携は悪化したように感じます。

## ○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど③

### <お困りごと（つづき）>

- 担当利用者が入院し、病院に本人の状態確認等を行った際、利用者（患者）の情報を教えてもらえない点は困る（状態が不明なまま）。
- 医療側は、CMや介護を見下していると思います。こちらの情報は欲しがるのに、病院の情報をCMに教えないのはおかしいです。連携ができていない。医療はCMをいいように利用している。
- ケアマネジャーが情報提供する際、FAXを希望する病院が多く、連携室や病棟に入院中の連絡をしても状況を聞かせていただけないことが近頃多い印象です。サマリーや退院日の決定なども知らせていただけないこともあり、サービス調整等に困ることがあります。
- 某病院に利用者が入院した際、その方にソーシャルさんが介入せず、入院中の状態も退院する日にちもケアマネジャーには連絡しないと言われた。自立型の施設に入所していたため、施設に戻って来られるかどうか不明で、大変困りました。
- 入院中の状況と自宅での状況の認識に相違があることもある。環境の変化なども関係していると思うが、在宅でその人が生活できるようにするための情報共有をもっとはかっていたらと思う。答えは出ないのですが、お互いに書面だけではなく連携が出来れば、とは思っている。ただ、短期間での入退院が増えていたり、同じ時期に入退院が重なることも多く、難しい部分もあると考える。
- 主治医との連携（情報のやりとり）について、基幹病院になると難しく感じる。情報を送るということも失礼かと思うし、持参することで病院職員の方の対応の手間をとってしまうのも気が引ける。

## ○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど④

### <お困りごと（つづき）>

- ・ 大きな病院やリハビリ病院との連携について、入退院などの際に、病院から連絡があり折り返し連絡をすると代表電話につながり、かなりの時間待たされることがある。やっと連絡者につながったかと思えば、電話が切れてしまったりと困ることがある。直通電話の整備と窓口の一本化、情報の共有に気を配っていただければ、もっと円滑に事が進むのではないのでしょうか。

## ○参考：医療と介護の連携について良くなった点やお困りごとなど⑤

### <その他>

- ・ 某病院について、入院されていない時点で在宅サマリーをくださいと電話連絡があり、個人情報なので入院後に情報を送付することを伝えた。
- ・ かかりつけ医の件で、本人病院受診ができるのに訪問診療をしている。訪問看護の時間に合わせて訪問しています。薬の処方も事業所の訴えも対応なし。大きな病院も本人の状態についてもあまり対応なく、検査のみで特に指示もなし。5、6月と毎週意識がなくなり吐くなどありましたが、病院に連絡してもハテナが多かったです。
- ・ **入院期間の短縮に伴い、SWの皆様の負担が大きくなり、以前よりも事務的にならざるを得ないのではないのでしょうか。**
- ・ 特に困りごとはありません。医療と介護の連携をしやすくなるよう改善策等検討いただき、ありがとうございます。
- ・ 「連携窓口連絡先一覧表 小倉南区・北区」を活用して、かかりつけ医と連携を図るツールで助かっています。H27作成以降、更新されていないので、最新にしていただけると助かります。
- ・ 担当が八幡西区に多いため、市外某病院に搬送される利用者が多いですが、**北九州以外でも連携が取れたら**と感じます。

検討

- 「とびうめ@きたきゅう」の市外医療機関（県内）での閲覧開始に向けた調整
- 「医療・介護連携ルール」への協力や「病院窓口ガイド」への掲載をアプローチ



## 2. 「とびうめ@きたきゅう」活用状況調査（対象：病院）

### 1. 調査目的

- 「とびうめ@きたきゅう」に参加している病院（全39病院）を対象に、  
「とびうめ@きたきゅう」の活用状況や「医療・介護連携ルール」の運用状況等を把握するための調査を、前年度に引き続き実施。

### 2. 調査方法

- 「とびうめ@きたきゅう」参加病院に電子メール及び郵送にて調査票を送付

### 3. 調査期間

- 令和5年11月22日（水）から同年12月22日（金）

### 4. 回答率

- 64.1%（25/39病院）《昨年度：43.6%（17/39病院）》

↳ { <内訳>

- ・ 救急病院 12病院
- ・ その他の病院 13病院

## ○結果要点（その1）

### 【利用している部署】

「地域連携室」が最も多い 76.0%（19/25病院）。《昨年度もトップ》

### 【検索・閲覧できる職種】

「事務スタッフ」が最も多い 76.0%（19/25病院）《昨年度もトップ》、  
次いで「SW」の 64.0%（16/25病院）。

### 【活用状況】

・ 院外の関係者に連絡するため	28.0%	《昨年度	35.3%
・ 緊急搬送時の治療の参考情報	24.0%	《昨年度	29.4%
・ 閲覧情報を院内の多職種で共有するため	12.0%	《昨年度	5.9%
・ <b>活用していない</b>	<b>60.0%</b>	《昨年度	52.9%

#### ※活用していない理由

・ <u>院内での周知・理解が十分でないため</u>	<u>46.7%</u>	《昨年度	33.3%
・ <u>閲覧情報を既に保有しているため</u>	<u>33.3%</u>	《昨年度	44.4%
・ PCの起動から見るまでに時間がかかる	26.7%	《昨年度	22.2%
・ 登録者数が少ないため	13.3%	《昨年度	22.2%

## ○結果要点（その2）

### 【登録申出書を勧める部署・設置している部署】

「地域連携室」が最も多い **68.0%**（17/25病院）《昨年度もトップ》、  
次いで「受付」が **40.0%**（10/25病院）、  
「入院支援センター」と「外来」が同率で **20.0%**（5/25病院）。

### 【入院患者が介護サービス利用者の場合、CMに連絡しているか】

- |                          |              |           |            |
|--------------------------|--------------|-----------|------------|
| ① <u>連絡している</u>          | <b>72.0%</b> | （18/25病院） | 《昨年度 47.1% |
| ② <u>連絡していない</u>         | <b>4.0%</b>  | （1/25病院）  | 《昨年度 11.8% |
| ③ <u>連絡する場合としない場合の両方</u> | <b>24.0%</b> | （6/25病院）  | 《昨年度 41.2% |

※CMに連絡する部署：地域連携部署（12病院）  
病棟（5病院）  
患者支援部署（4病院）  
入退院管理部署（2病院）

※CMに連絡しない理由：家族等を通じて伝えてもらっている（4病院）  
退院調整の段階に入った時点で連絡している（1病院）  
入院期間が短く、CMまで連絡ができないこともある（1病院）

## ○結果要点（その3）

### 【アクセスログからのヒット率】（とびうめ@きたきゅう導入病院における検索・閲覧状況）

区 分	令和3年	令和4年	令和5年
ヒット率	8.2% (2,274ヒット/27,593検索)	10.5% (2,913ヒット/27,713検索)	<b>29.4% (*)</b> (8,941ヒット/30,448検索)
検索病院数 (月平均)	10.6病院	8.3病院	<b>7.7病院</b>

#### （\*）ヒット率が高い要因

- ▶とびうめネット事務局から毎月送付される登録患者一覧が届いた際、自院患者の情報を毎回検索・確認している「病院A」において、ヒット率が上昇（令和5年～）

区 分	令和4年	令和5年
「病院A」のヒット率	10.9% (788ヒット/7,223検索)	47.8% (5,898ヒット/12,341検索)

#### <参考> 令和5年の「病院A」のヒット率を除いた場合《調整後》

区 分	令和3年	令和4年	令和5年
ヒット率	8.2% (2,274ヒット/27,593検索)	10.5% (2,913ヒット/27,713検索)	<b>16.8% 《調整後》</b> (3,043ヒット/18,107検索)

- ➡登録者数の増加に合わせて、ヒット率も着実に上昇している  
その一方で、検索する病院数は減ってきている

## ○まとめ（病院調査）

- 「とびうめ@きたきゅう」を活用していない病院は6割で、主な理由は
  - ・ 院内での周知・理解が不十分（46.7%）
  - ・ 閲覧情報を既に保有している（33.3%） となっている。
- 令和3～5年のそれぞれ1年間のアクセスログによると、
  - ・ ヒット率（患者閲覧数/検索数）は上昇傾向（8.2%⇒16.8%<調整後>）
  - ・ 検索病院数は減少傾向（10.6病院⇒7.7病院） となっている。
- 介護サービス利用者が入院した際のケアマネ事業所への連絡状況については、
  - ・ 必ず「連絡している」病院は7割を超え（昨年度は5割弱）、
  - ・ 家族に伝えてもらえる場合などは「連絡しない」 となっている。
- 病院内でのプロジェクトの取組みを定着させるためには、  
院内での周知や理解を促すための取組みを改めて実施する必要がある。

○参考：病院内で「とびうめ@きたきゅう」を利用している部署

地域連携室	入院支援センター (入院支援部署)	救急外来	病棟	その他
76.0% (19/25病院)	16.0% (4/25病院)	24.0% (6/25病院)	0.0% (0/25病院)	40.0% (10/25病院)

<「その他」の内訳>

- ・入院受付
- ・外来部門
- ・診療情報管理室
- ・事務
- ・患者支援センター
- ・利用なし



○参考：病院内で「とびうめ@きたきゅう」を検索・閲覧できる職種

医師	看護師	ソーシャルワーカー	事務スタッフ	薬剤師	その他
52.0% (13/25病院)	60.0% (15/25病院)	64.0% (16/25病院)	76.0% (19/25病院)	8.0% (2/25病院)	4.0% (1/25病院)

## ○参考：病院内での「とびうめ@きたきゅう」の活用状況

1： 緊急搬送時 の治療の 参考情報 として活用	2： 閲覧情報を 院内の多職種 (Dr、Ns、SW等) で共有	3： 院外の関係者 (ケアマネ、家族等) に連絡する際に 活用	4： その他  <内容> 薬歴、他院での データ等の確認	5： 使っていない
24.0% (6/25病院)	12.0% (3/25病院)	28.0% (7/25病院)	8.0% (2/25病院)	60.0% (15/25病院)

### <「5：使っていない」理由>

1： 閲覧できる パソコンが わからない	2： パソコンの 起動から情報 を見るまでに 時間がかかる	3： 閲覧情報を 既に保有して いるため、 見る必要が ない	4： 登録者数が 少なく、 検索しても 登録していな い方が多い	5： 院内での周知 ・理解が十分 でないため、 日常業務で 閲覧できない	6： その他
6.7% (1/15病院)	26.7% (4/15病院)	33.3% (5/15病院)	13.3% (2/15病院)	46.7% (7/15病院)	46.7% (7/15病院)

### <「その他」回答の内容>

- ・当院外来患者や他院からの転院なので、情報を十分に得られる。
- ・患者が登録されているかどうかもわからない。
- ・タイムリーな情報が求められ、電話連絡で最新情報を確認。
- ・閲覧までの工程に時間と労力がかかる。
- ・必要なケースがなかった。
- ・周知しているが、職員が使用しな

○参考：『登録申出書を患者に勧める部署』や『登録申出書を設置している部署』

地域連携室	病棟	入院支援センター (入院支援部署)	外来	受付	その他
68.0% (17/25病院)	8.0% (2/25病院)	20.0% (5/25病院)	20.0% (5/25病院)	40.0% (10/25病院)	12.0% (3/25病院)

<「その他」の内訳>

- ・患者相談窓口
- ・患者支援センター
- ・勧めていない



#### 【上記についての補足説明等】

- ・ 院内にポスター掲示はしており、希望があれば書類を配布している。
- ・ 病院受付カウンターに「とびうめネット」の資料を設置。
- ・ 入院時にアナウンスしているが、情報のボリュームが大きくなり、記載されないままのご家族が多い印象あり。
- ・ 患者が入院する際に説明。登録申出書は受付に置いてある。



○参考：入院となった患者が介護サービスを利用している場合、  
CMに連絡しているか

連絡している	連絡していない	連絡する場合としない場合の両方	＜連絡する部署（複数回答あり）＞ ・ 地域連携部署（12病院） ・ 病棟（5病院） ・ 患者支援部署（4病院） ・ 入退院管理部署(2病院)
72.0% (18/25病院)	4.0% (1/25病院)	24.0% (6/25病院)	

【「連絡していない」理由】

(記載なし)

【「連絡する場合としない場合の両方」ある理由】

- ・ 家族を通じて伝えてもらっているため。【その他病院】
- ・ すでに施設や家族が連絡しているケースを除く。【救急病院】
- ・ 退院調整の段階に入った時点で連絡している。また、転院患者の割合が高いため、家族からの情報収集で十分なこともある。入院期間も短く、ケアマネまで連絡ができないこともある。【救急病院】
- ・ 家族を通じて伝えてもらっているため。【その他病院】
- ・ 家族が伝えているため。【その他病院】

## ○参考：院内活用の体制を整えるために困っている事

- ・ 救急外来には設置しているが、あまり活用はできておらず、また、院内周知はしているものの、職員全体にまで広まっていない。【救急病院】
- ・ 院内全体に周知できていない。【救急病院】
- ・ 周知が限られた部署のみになっており、使用方法がわからないスタッフも多いため、活用できていない。【その他病院】
- ・ 周知は行っているが、職員は使用しない。医師からの検索の依頼もない。【その他病院】
- ・ 院内での周知は実施しているが、どういったものかはしっかり把握していない。  
【その他病院】
- ・ 活用部署が限られているため、全く知らないスタッフもいる。【その他病院】
- ・ 救急窓口に端末を設置しておらず、緊急搬送受入時に活用できていない。【救急病院】
- ・ 救急外来に端末を設置しておらず、緊急搬送受入時の活用はできていない。【救急病院】
- ・ すぐに見れる場所には設置していない。【その他病院】
- ・ パスワードの期限が早く、変更後のパスワードがわからなくなり、結果使用しないことになっている。【その他病院】
- ・ 電子カルテのネットワークと別のため、端末に制限があることと、回線切替えの必要があるため、ある程度PCに詳しくないと使ってもらえない。【その他病院】
- ・ 体制を整える準備ができていない。【その他病院】

○参考：「とびうめ@きたきゅう」や「医療・介護連携ルール」を活用したことにより、『役に立った点』や『良かった事例』など

- とびうめ@きたきゅうで**かかりつけ医や薬剤情報を早く知ることができ、治療の参考になった**。また、緊急連絡先情報から**家族への連絡もすぐにできた**。（薬剤情報は直近のものがないため（数ヶ月前情報）、結局問い合わせることもあるが…。）【その他病院】
- 家族不明患者について、担当CMより身元が判明した。**救急搬送時、身元不明でわずかな手がかりで「とびうめ」で検索、ヒットし、患者情報が拾えたこと**。【救急病院】
- 救急搬入時、患者から登録カードを提示され、スムーズに情報を把握できることは助かっている。【救急病院】
- 救急搬入された患者の薬剤情報を入手することができ、治療に役立てることができた。【救急病院】
- 手術に際して**患者が失念していた処方薬を確認でき、スムーズに休薬**できた。【救急病院】
- **担当CMを把握できることで、患者情報の提供など早期に連携を図ることが可能となり、カンファレンスへの参加など退院支援の方向性を一緒に検討することが多くなった**。【その他病院】
- CMと連絡を取り合うことで退院調整が行いやすい。【その他病院】
- 担当CMについては介護保険証の届出欄にて確認可能であるが、予防ケースは具体的な事業所名の記載がないため、情報収集に役立っている。【その他病院】

## ○参考：自由意見欄

- 急性期病院の看護師が患者の担当CMに入院早期に連絡し、情報共有する形が定着してきたと思う。【救急病院】
- 患者の担当CMから急性期病院に今後の支援について連絡がいただけるようになった。【救急病院】
- 担当部署が新たに設置され、「とびうめ@きたきゅう」以外での情報でも、担当CMに連絡を行うよう統一している。【救急病院】
- 直接、CMや各事業所、かかりつけ医へお問い合わせすることがほとんどなので、とびうめを利用してません。【救急病院】
- マイナンバーが普及する中、今後も必要になるのかが不透明。【救急病院】
- 被保険者番号、マイナンバーカードの番号で検索できると活用の幅が広がる。【救急病院】
- 佐賀の「ピカピカリンク」、長崎の「あじさいネット」のように画像共有、カルテ情報共有、情報提供書の閲覧など使用効果の高い情報を共有できるようにして欲しい。【救急病院】

# 北九州医療・介護連携プロジェクトとして 今後、力を入れていく点

## ①「とびうめ@きたきゅう」の市外展開に向けた取組み

- これまでの3者（福岡県医師会・北九州市医師会・北九州市）に加え、福岡県を含めた4者で共同して取組みを進めていく。
- 新たに加わる市外医療機関においても、有効的に活用していただけるよう、プロジェクト会議構成団体を含めた関係者間で協力しながら、周知・啓発等を図る。

## ②プロジェクトを効率よく効果的に運用してもらうための取組み

- 「とびうめ@きたきゅう」の市外展開後も効率よく効果的に運用してもらえるよう、引き続き「とびうめ@きたきゅう」の登録者数を増やす取組みを進める。
- あわせて「医療・介護連携ルール」のより一層の定着化や「病院窓口ガイド」の見直し・拡充等に取り組んでいく。

### 議題3. 「病院窓口ガイド」の改訂等について

- 掲載されている**全病院に掲載内容等の確認**を実施
  - ・ 令和5年12月末に依頼文等を発送〈期限：令和6年1月末〉
  - ・ 実施にあたり、「**代表電話番号**」記載の病院については「**直通番号**」に変更していただくよう依頼（より使いやすくするための見直し）
- 「**市外近隣病院**」に**追加掲載の個別依頼**を実施
  - ・ 対象：福岡新水巻病院、新中間病院、おんが病院、小波瀬病院、新行橋病院
  - ※いずれも県内の「とびうめネット」に参加する隣接地域の救急告示病院
  - ➔ **いずれの病院も掲載OK!**
- 更新改訂後、**令和6年春頃**に発行予定【配布先】  
全ての掲載病院、訪問看護ST、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護  
※市ホームページにも最新版を掲載  
(以後、随時更新)

計84病院  
掲載!!

